



資料3

# 入院者訪問支援事業の実施状況について

令和8年2月10日

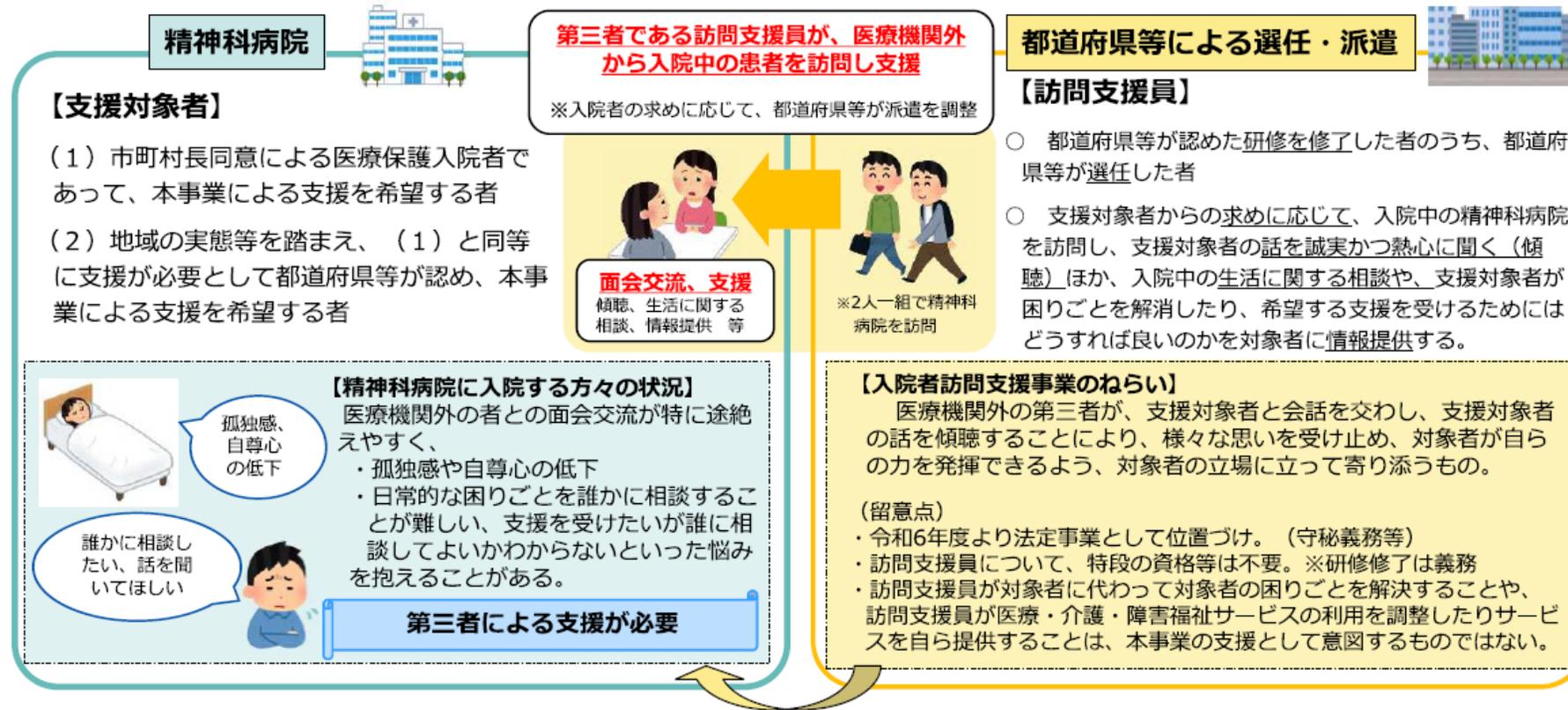
がん・疾病対策課精神医療グループ

- 1 事業概要
- 2 令和7年度の実施状況
- 3 事業推進の取組み
- 4 事業課題

# 1 事業概要

## (1) 入院者訪問支援事業とは

- 精神科病院で入院治療を受けている者については、医療機関外の者との面会交流が特に途絶えやすくなることを踏まえ、入院者のうち、家族等がない市町村長同意による医療保護入院者等を中心として、面会交流の機会が少ない等の理由により、第三者による支援が必要と考えられる者に対して、希望に応じて、傾聴や生活に関する相談、情報提供等を役割とした訪問支援員を派遣するもの。
- 実施主体は都道府県、政令指定都市、特別区、保健所設置市（以下、「都道府県等」という。）



精神科病院に入院している支援対象者の自尊心低下、孤独感、日常の困りごと等の解消が期待される。

(厚生労働省資料より引用)

# 1 事業概要

## (2) 本県における実施について

	精神科	地域
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 非自発的入院患者は<u>孤立しやすい</u>ことが、国の検討会で報告されている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 精神科病院の入院患者の約9割は、1年未満で退院する。</li><li>・ 1年以上の<u>長期入院患者の退院が進まない</u>。</li></ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 身寄りのない患者には、<u>地域の情報が届かない</u>。</li><li>・ 孤立化は、<u>自尊心の低下を招きやすい</u>。</li><li>・ 自尊心が低下すると、<u>退院の意欲もわきにくい</u>。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 長期入院患者への<u>有効な支援策となる「地域移行支援」等の利用が伸びない</u>。</li></ul>
必要な対策	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <u>患者の孤立感を解消し、地域移行につなげる</u></li><li>✓ <u>地域の援助事業者との連携を促進する</u></li></ul> 等	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <u>ピアサポーターの力を活用した支援の強化</u></li><li>✓ <u>地域移行支援の対象者の把握</u></li></ul> 等

令和6年度から実施

精神科病院入院者支援事業

入院者訪問支援事業

(がん・疾病対策課)



精神障害者地域移行支援強化事業

(障害福祉課)

連携して実施

# 1 事業概要

## (2) 本県における実施について (つづき)

入院中

地域移行期

地域定着期

### <入院者訪問支援事業>

#### ○病院と事業者との連携促進

- ・積極的な情報交換

#### ○精神科病院訪問

- ・入院患者の気持ちや不安を傾聴  
患者の意向があれば、地域移行につなぐ
- ・患者への必要な情報提供

### <地域移行支援強化事業>

#### ○精神科病院訪問

- ・ピアサポーターによる普及啓発
- ・退院意欲喚起

#### ○積極的なケース把握

- ・個別給付へつなげる働きかけ

### <地域移行支援強化事業>

#### ○精神科病院訪問

- ・ピアサポーターからの情報提供

#### ○個別給付の積極的な実施

- ・地域移行支援計画の作成
- ・定期的な面接
- ・体験等の実施 等

### <地域移行支援強化事業>

#### ○個別給付の積極的な実施

- ・地域定着支援や自立生活援助の積極的な実施

入院中から地域生活まで、一貫した「当事者目線」の支援を提供し、  
**精神障がい者にとって切れ目のない支援を受けられる環境をつくる**

# 1 事業概要

## (2) 本県における実施について (つづき)

圏域	委託事業所
横須賀・三浦圏域	地域生活サポートセンターとらいむ
湘南東部圏域	地域生活支援センター元町の家
湘南西部圏域 (平塚市・大磯町・二宮町)	平塚市障がい者地域生活相談支援センター ほっとステーション平塚
湘南西部圏域 (秦野市・伊勢原市)	相談支援事業所こころの笑顔
県央圏域	相談センターゆいまーる
県西圏域	自立サポートセンタースマイル

※精神科病院(認知症治療の病院を除く)が圏域内に6箇所と最も多い湘南西部圏域では、2事業所へ委託が必要なため、計6事業所としている。

## 2 令和7年度の実施状況

### (1) 入院者訪問支援員養成研修

- ◆訪問支援を行う「入院者訪問支援員」の養成研修を開催
- ◆精神保健福祉C、保健所設置市、その他関係機関（神奈川県精神科病院協会等）の協力を得て開催
- ◆厚生労働省作成の平準化カリキュラムを参考に実施
  - ・ **講義**：約5時間程度（オンライン）  
訪問支援の意義や役割等の**基本的な知識を習得**
  - ・ **演習**：約6時間（対面）  
訪問支援員として必要とされる**実践的な知識や技能を習得**



独自で県の実施体制について講義を実施

## 2 令和7年度の実施状況

### (1) 入院者訪問支援員養成研修（つづき）

○入院者訪問支援員養成研修開催実績

令和7年8月1日（金） 藤沢合同庁舎

申し込み人数	受講人数	修了者数	登録者数
27人	24人	27人※	26人

※ファシリテーターで参加した3人を含む

#### 登録者内訳

	事業所職員	ピアサポーター	ボランティア	MHSW協会	行政	その他
<b>R7年度</b>	4人	10人	2人	6人	3人	1人
R6年度	19人	23人	2人	7人	14人	—
合計	23人	33人	4人	13人	17人	1人

**現在登録されている入院者訪問支援員は全部で91名**

## 2 令和7年度の実施状況

### (2) 訪問支援依頼の件数（事業所別）（4～9月）（令和7年12月31日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期合計
とらいむ （横須賀・三浦地域）	2件	1件	1件	8件	2件	1件	<b>15件</b>
元町の家 （湘南東部地域）	0件	1件	1件	1件	2件	0件	<b>5件</b>
ほっとステーション平塚 （湘南西部平塚地域）	0件	0件	1件	1件	2件	1件	<b>5件</b>
こころの笑顔 （湘南西部秦野地域）	1件	0件	0件	2件	1件	4件	<b>8件</b>
ゆいまーる （県央圏域）	3件	5件	3件	3件	6件	5件	<b>25件</b>
スマイル （県西圏域）	0件	0件	1件	2件	0件	2件	<b>5件</b>
合計	6件	7件	7件	17件	13件	13件	<b>63件</b>

## 2 令和7年度の実施状況

### (2) 訪問支援依頼の件数（事業所別）（10～12月）（令和7年12月31日現在）

	10月	11月	12月	4～12月合計
とらいむ （横須賀・三浦地域）	10件	4件	2件	<b>31件</b>
元町の家 （湘南東部地域）	1件	0件	0件	<b>6件</b>
ほっとステーション平塚 （湘南西部平塚地域）	3件	0件	1件	<b>9件</b>
こころの笑顔 （湘南西部秦野地域）	2件	1件	3件	<b>14件</b>
ゆいまーる （県央圏域）	5件	6件	5件	<b>41件</b>
スマイル （県西圏域）	2件	2件	2件	<b>11件</b>
合計	23件	13件	13件	<b>112件</b>

（参考）  
令和6年度（10～3月）の訪問  
支援依頼件数は、**25件**

## 2 令和7年度の実施状況

### (3) 依頼時点对応結果（事業所合計）（4～9月） （令和7年12月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期合計
件数		6件	7件	7件	17件	13件	13件	<b>63件</b>
内 訳	訪問支援員 派遣調整	5件	7件	6件	17件	10件	11件	<b>56件</b>
	訪問調整するも キャンセル	1件	0件	0件	0件	1件	0件	<b>2件</b>
	情報提供等実施 派遣せず完了	0件	0件	1件	0件	2件	1件	<b>4件</b>
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	1件	<b>1件</b>

## 2 令和7年度の実施状況

### (3) 依頼時点对応結果（事業所合計）（10～12月）（令和7年12月31日現在）

		10月	11月	12月	4～12月合計
件数		23件	13件	14件	<b>113件</b>
内訳	訪問支援員 派遣調整	23件	11件	13件	<b>103件</b>
	訪問調整するも キャンセル	0件	1件	0件	<b>3件</b>
	情報提供等実施 派遣せず完了	0件	0件	0件	<b>4件</b>
	その他	0件	1件	1件	<b>3件</b>

## 2 令和7年度の実施状況

### (4) 主に行った訪問支援の内容（主たるもの）（4～9月）

（令和7年12月31日現在）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期 合計
訪問件数		4件	4件	7件	14件	9件	9件	<b>47件</b>
内 訳	本人の話を聴く	4件	3件	6件	11件	6件	7件	<b>37件</b>
	本人に権利を伝える	0件	0件	0件	0件	0件	0件	<b>0件</b>
	専門職の役割を説明	0件	0件	0件	0件	0件	0件	<b>0件</b>
	病院職員へ本人の思いの伝え方を考える	0件	1件	1件	3件	1件	2件	<b>8件</b>
	社会資源の説明	0件	0件	0件	0件	2件	0件	<b>2件</b>
	弁護士等の情報提供	0件	0件	0件	0件	0件	0件	<b>0件</b>
	その他	0件	0件	0件	0件	0件	0件	<b>0件</b>

## 2 令和7年度の実施状況

### (4) 主に行った訪問支援の内容（主たるもの）（10～12月）

（令和7年12月31日現在）

		10月	11月	12月	4～12月 合計
訪問件数		20件	15件	12件	<b>94件</b>
内 訳	本人の話を聴く	19件	13件	10件	<b>79件</b>
	本人に権利を伝える	0件	0件	0件	<b>0件</b>
	専門職の役割を説明	0件	0件	0件	<b>0件</b>
	病院職員へ本人の思いの伝え方を考える	0件	1件	0件	<b>9件</b>
	社会資源の説明	1件	1件	1件	<b>5件</b>
	弁護士等の情報提供	0件	0件	0件	<b>0件</b>
	その他	0件	0件	1件	<b>1件</b>

（参考）

令和6年度（10～3月）の訪問

支援件数は、**18件**

## 2 令和7年度の実施状況

### (5) 地域移行支援強化事業との連携

#### ケース1

- ◆令和6年度に入院者訪問支援事業を利用をした患者。
- ◆「グループホームに入りたい」と希望を話される。緊張感が高かったが、好きな音楽などの話で緊張をほぐし、「グループホームの職員も面会に来てくれる」との話を傾聴。
- ◆患者の同意を得て、**地域移行支援強化事業につなぎ、継続的支援**。令和7年3月より個別給付の地域移行の利用となりR8.1.15グループホーム入居となった。

#### ケース2

- ◆保健福祉事務所のケースワーカーと協働して入院中の患者と面会を継続していたところ、「地域で暮らす当事者にも話を聞いてほしい。一人暮らしの当事者とグループホームで暮らす当事者のそれぞれの話を聞きたい」という趣旨の話があった。
- ◆面接前半では、職員とピアサポーターの2名が訪問支援員として今後の暮らし方の希望などについて話を聞き、面接後半にはもう一人のピアサポーターを交えて、住まいの場所や地域での生活支援に関する情報提供を行った。

# 3 先駆的取組み事例

## (1) 地域移行支援強化事業との連携

### ケース3

- ◆令和7年7月に実施した滞在型訪問支援を利用をした患者。
- ◆訪問支援の際は、退院後のお住まいの話や、「買い物がしたい」、「料理ができるようになりたい」などと話をされ、訪問支援員が傾聴。
- ◆その後、**地域移行支援強化事業につなぎ、支援**（外出同行し、一緒に買い物や外食をする。）**を行った。**

# 3 事業推進の取組み

## 本県の入院者訪問支援事業における課題

令和6年度第2回実務担当者会議（令和7年1月24日）で挙げられた課題

### 【委員からの主な意見】

#### 事業周知について

- ◆支援対象者が拡大されたことにより、チラシだけでなく、ポスター等により広く周知することが必要。
- ◆事業所による周知だけでなく、市町村担当者や病院スタッフ等からの周知も重要。
- ◆精神科病院に第三者が入ることは、とてもハードルが高いため、一層の病院側の理解が必要。

等

#### 訪問支援について

- ◆訪問支援員（ピアサポーター）が訪問を前に、必要以上に身構えてしまっている。  
精神科病院までの経路の確認や、事前情報の共有など訪問にあたっての準備は大事。
- ◆1人の患者に対し、訪問支援回数が1回という制限があるため、この制限を改善すべき。
- ◆1回だけではなく、「また話を聞いてもらえる機会がある」というメッセージを患者に伝えるべき。

等

#### 訪問支援後について

- ◆訪問支援員（ピアサポーター）が、支援対象者の影響を受け、自身の症状が悪化してしまう可能性がある。
- ◆訪問支援員に対するフォローアップ体制を整備すべき。

等

# 3 事業推進の取組み

## 1 滞在型訪問支援

訪問希望者がいない場合でも病院を訪問して滞在する他県の事例を参考に  
当県でも**福井記念病院で実施**

### ◆ 滞在型訪問実績

第1回 令和7年7月18日（金）

第2回 令和7年10月24日（金）

### ◆ 訪問前

病院側が訪問する病棟を決め、病棟の入院者に事前に案内をし、訪問希望者を事前に集約

# 3 事業推進の取組み

## 1 滞在型訪問支援（つづき）

### ◆当日

- ・訪問支援員（委託事業所職員、ピアサポーター）が複数で病院を訪問。
- ・病棟の入院者にデイルームに集まってもらい、訪問支援員が自己紹介と事業の説明を行う。その後、個室等に移動し、事前に希望のあった入院者と面会。
- ・訪問日当日に面会を希望した入院者にもできる範囲で面会実施。

### ◆実施結果

- ・面会を予定していなかった入院者の面会を追加で実施
- ・訪問支援の様子を見ていた入院者から希望があり、次回の訪問支援につながった
  - ➡ **入院者に事業を知ってもらうことができた**
- ・病棟の看護師に実際の訪問支援の様子を見てもらうことができた
  - ➡ **ソーシャルワーカー以外の医療従事者にも事業について理解してもらえる**

### 3 事業推進の取組み

#### 1 滞在型訪問支援（つづき）

福井記念病院のほか、令和8年2月3日に**平塚病院**でも滞在型訪問支援を実施

当日は、看護師長の声掛けにより入院者にデイルームに集まってもらい、訪問支援員が自己紹介及び事業説明を行った後、当日に面会を希望した入院者4名の面会を実施。



面会を実施した入院者4名は、継続して次回の面会を希望されている。

3月にも別病棟で実施予定

次年度も、訪問支援員の派遣実績がまだない病院に対して滞在型訪問支援を展開し、更なる事業周知をしていきたい

# 3 事業推進の取組み

## 2 入院者訪問支援員フォローアップ研修

### (1) 訪問支援員の資質の向上

- ◆訪問支援員の中心的な役割である**傾聴の技能向上**を目的としたロールプレイ演習を研修に入れる。

### (2) 訪問支援において揺らいだ訪問支援員のケア

- ◆これまでに行った訪問支援事例の中で、訪問支援員が**対応に困ったり悩んだ事例**について、共有。
- ◆考えられる対応や、対応した訪問支援員のよかったところを中心に事例検討。

### (3) これから訪問支援を行う訪問支援員のイメージづくり

- ◆先行実施された訪問支援の事例を知ること、**訪問支援のイメージを掴む**。

**効果的な研修とするために研修講師が必要**

### 3 事業推進の取組み

#### ○本県における入院者訪問支援事業

- ◆ **入院者訪問支援事業と地域移行支援を連携**させ、入院者訪問支援員として **ピアサポーターを活用**するなど、事業実施に工夫をしてきた。
- ◆ 事務局を障害福祉圏域ごとに設定するなど、他都道府県でも少ない事例の取組を進めている。

**先行自治体の情報収集や、関係者間での事業検討だけではなく有識者の意見等を取り入れて事業推進をしていく必要がある。**

**ピアサポートに知見を有する神奈川県立保健福祉大学  
ゆきざね 志都子 教授に事業アドバイザーを依頼  
行實**

# 3 事業推進の取組み

## (2) 入院者訪問支援員フォローアップ研修

- ◆訪問支援員の知識・技能等の研鑽のため、フォローアップ研修を開催
- ◆事業アドバイザーの行實教授（神奈川県立保健福祉大学）、精神保健福祉C、保健所設置市等の協力を得て開催

### ◆研修開催実績

令和7年12月8日（月） 海老名市文化会館

申し込み人数	受講人数
23人	18人

※申込者のうち、4名は訪問支援の経験なし

### 内訳

事業所職員	ピアサポーター	ボランティア
6人	10人	2人

# 3 事業推進の取組み

## (2) 入院者訪問支援員フォローアップ研修（つづき）

### ◆研修内容

- ・ **講義**：「入院者訪問支援員の基本的役割と中核を担う『傾聴』とは」

講師：神奈川県立保健福祉大学 行實 志都子 教授

- ・ **演習**：傾聴と入院者訪問支援員の役割

ロールプレイを通じて、傾聴を体験

- ・ **グループワーク**：訪問支援の事例報告

①訪問支援事例を1つ取り上げ、その事例を聞いて考えたこと、自分だったらどのように対応するかなどについて、グループ内で意見交換

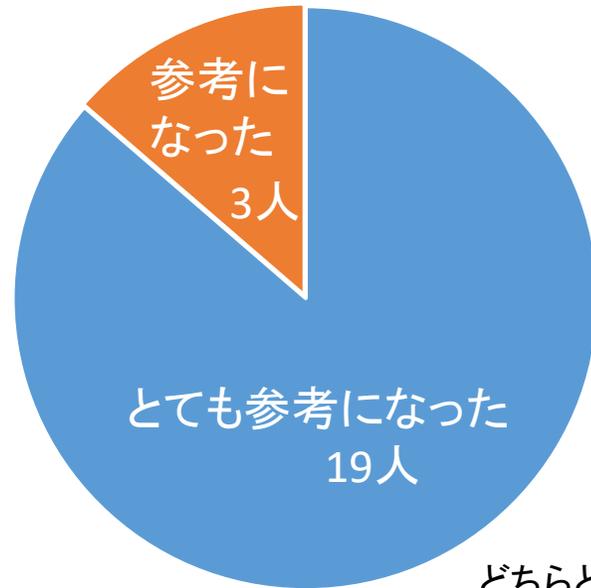
②複数の訪問支援員から事例を全体発表してもらい、事例を聞いて考えたこと、参考にしたいこと、訪問支援をするにあたって大事なことについて、グループ内で意見交換

### 3 事業推進の取組み

## (2) 入院者訪問支援員フォローアップ研修（つづき）

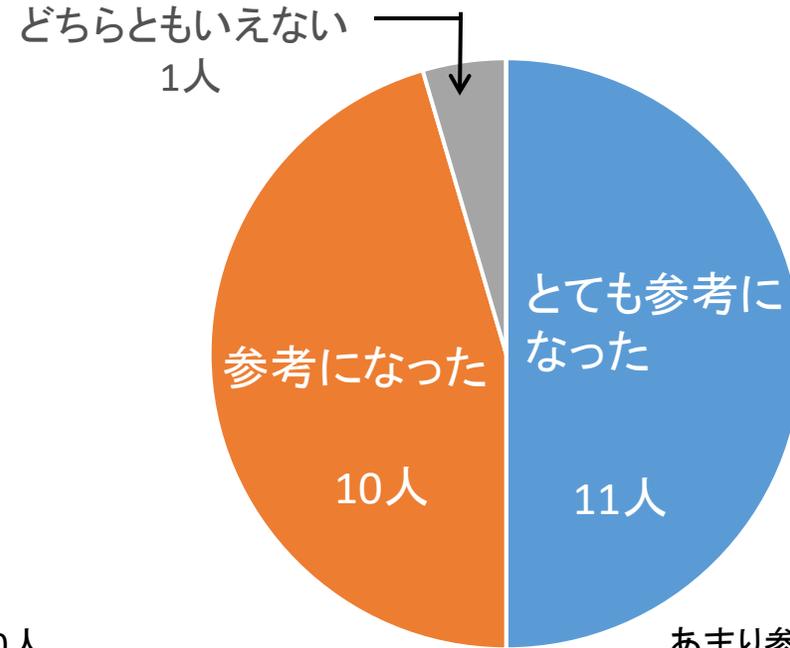
受講者アンケートの結果（22名が回答）

【講義】入院者訪問支援員の基本的役割と中核を担う『傾聴』とは



どちらともいえない 0人  
あまり参考にならなかった 0人  
参考にならなかった 0人

【演習】傾聴と入院者訪問支援員の役割



あまり参考にならなかった 0人  
参考にならなかった 0人

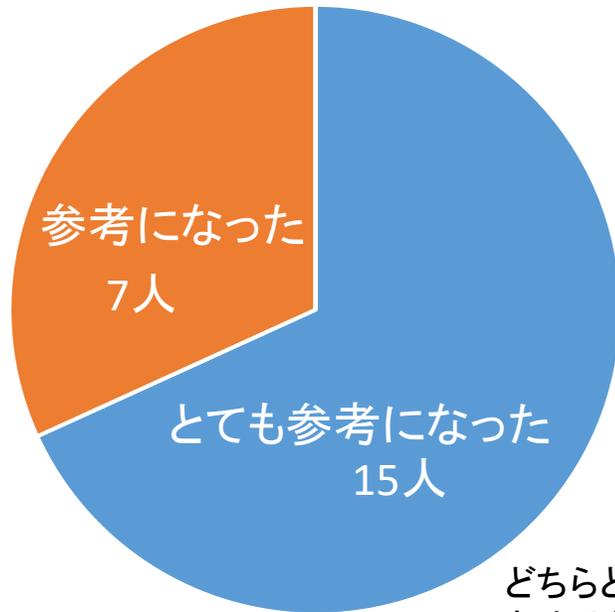
# 3 事業推進の取組み

## (2) 入院者訪問支援員フォローアップ研修（つづき）

受講者アンケートの結果（つづき）

### 【訪問支援の事例報告①】

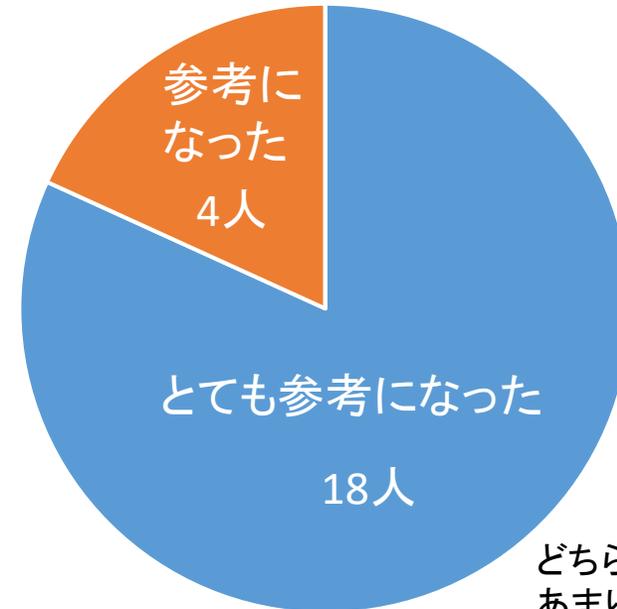
ゆいまーるの入院者訪問支援員から



どちらともいえない 0人  
あまり参考にならなかった 0人  
参考にならなかった 0人

### 【訪問支援の事例報告②】

それぞれの入院者訪問支援員から



どちらともいえない 0人  
あまり参考にならなかった 0人  
参考にならなかった 0人  
無回答 1人

# 3 事業推進の取組み

## (2) 入院者訪問支援員フォローアップ研修（つづき）

### 受講者アンケートの結果（つづき）

- ◆他の訪問支援員の取組事例や考え方を聞く機会ができて良かった。
- ◆仲間との対話ができることが良かった。
- ◆制度が開始されて1年が経ち、これでよかったのかなと思うことがあったので、改めて基本姿勢を振り返り、考えを共有する機会がありとても良かった。
- ◆行實先生の講義やコメントで、日々のもやもやを整理することができた。
- ◆行實先生の言葉が響いた。「一人にしない」を忘れないようにしていきたい。
- ◆病気、特性についての勉強会をお願いしたい。

### 3 事業推進の取組み

#### (2) 入院者訪問支援員フォローアップ研修（つづき）

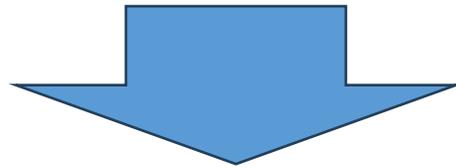
次年度以降も、フォローアップ研修を実施

入院者訪問支援員登録（養成研修受講年度）から3年以内を  
目安に受講してもらい、**入院者訪問支援員のスキルアップを**  
**図る仕組み**としたい

## 4 事業課題

令和7年度入院者訪問支援事業実務担当者会議（令和7年1月20日開催）において、

**訪問支援を行った評価（入院者の感想等）がつかみづらい**という意見が上がった



**国の研究班が実施する入院者アンケート（※）**を活用し、アンケート結果から得られる入院者からの事業評価を、訪問支援員にフィードバックしたい

（※）面接終了後に訪問支援員から患者にはがきと保護シールをお渡しし、アンケート記入後に投函してもらおう。返送先は、国立精神・神経研究センター。同センターが集計した結果を各自治体は確認することができる。

## 4 事業課題

令和8年度の入院者訪問支援では、次の柱で実施したいと思います。

- **滞在型訪問支援**によって、各精神科病院の入院者及び医療従事者への事業周知を進めていく。
- 国研究班の**入院者訪問事業利用者アンケート**を活用して、事業を利用した入院者からの事業評価を収集し、訪問支援員にフィードバックしていく。
- 利用者からのフィードバックも踏まえて、**訪問支援員のフォローアップ研修**により訪問支援員のスキルアップを図る。

委員の皆様のご意見をお願いいたします。